

# 美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

## 1 事業名

ヒノキの森でおもてなし隊

## 2 実施団体

真庭システム協議会

## 3 協働担当課

真庭地域森林課

## 4 事業概要

### (目的)

ヒノキブームの韓国から長期滞在志向の観光客をもてなすため、木材のまち真庭の地域資源であるヒノキの森を観光資源として整備するとともに、韓国市場に精通したアドバイザーの監修のもとでヒノキを使った魅力ある商品開発を行い、地域の賑わい創出を目指す。

### (事業内容)

昨年度の事業経緯と改善点を踏まえ、今年度は「韓国人観光客モニターツアーについて岡山県観光課などの助言を基に、韓国の旅行業者による現地視察や協議を重ね、真庭地域をまず理解してもらうことを優先して少人数のツアーとして計画し、実施した。

ヒノキ商品については韓国での反応が芳しくなかった物については改良するとともに、商談の動きを得た物については推進を図った。

また、本年度新しくヒノキの森を訪れる観光客をもてなす受け皿としてガイドの養成を図るための研修会を実施した。

## 5 実施内容

- ・ 6/30 岡山県庁観光課訪問
- ・ 7/18 韓国人旅行業者が真庭市視察（今後の打合せ）
- ・ 9/21 ヒノキの森整備事業実施  
（真庭高校落合校地生徒70人参加、プレス発表）
- ・ 10/11～12 韓国人旅行業者（チャンネルファクトリー）来訪（打合せ）
- ・ 10/31～11/2 韓国人プロガー等によるモニターツアー実施（プレス発表）
- ・ 11/24 ガイド養成研修会（現地研修と木材としてのヒノキの学習）
- ・ 12/ 3 " （現地研修）
- ・ 12/10 " （渋沢寿一氏講演会：森と共にある暮らし）

## (1) ヒノキ商品の開発状況

- ①お茶
  - ・引き続き韓国アンテナショップで試飲の提供  
→喜ばれている、反応は良い（全体に反応は上向き）
  - ・国内向け開発の検討  
→ 製茶会社へ商品化の検討を依頼
  
- ②木工品
  - ・おもちゃ 韓国内で全国展開のキッズカフェへ提供  
店内のおもちゃ置き場を木材で計画
  - ・名刺入れ 改善要望  
→ 幅や蓋の開き方を改良して提供(展示・販売中)
  
- ③染め物 売り方、アピールの方法を再検討  
→韓国内のネット上でショッピングモールとの連携販売を計画

## (2) 韓国人モニターツアーの実施

- 6人の参加により実施  
→ 詳細は別添報告書

## (3) ヒノキの森のガイド養成

- ・新庄村の森林セラピー基地周辺もヒノキの森の2カ所目として活用
- ・セラピーガイドを中心にヒノキの森のガイドもできる人材の養成のため研修会を実施

## < 活動写真 >



↑  
薬草シンポジウム会議で試飲中  
(真庭市役所勝山振興局の一室)



↑  
試作品のお茶

高校生もお茶作りに挑戦！  
(林研婦人部と真庭高校生の皆さん)



試作品の材料配合は（ヒノキ4・クワ1・クマザサ1）の割合  
※韓国のアテナショップにも試飲用として提供

# < 活動写真 >

韓国のアンテナショップで展示・販売風景



← 好評なおもちゃ



← 韓国向け名刺入れ  
(韓国は名刺が日本より少し小さい)



← ヒノキの染め物のれん、ハンカチ等





< 活動写真 >



韓国人新聞記者や旅行業者一行

(クリエイト菅谷でPR用取材と打合せ風景) →

韓国人対象のモニターツアーを実施（韓国からの皆さんは6名）

美甘にあるクリエイト菅谷のヒノキの森に韓国からの観光客を誘致しようと打合せ



11/24

クリエイト菅谷で現地研修会と岡山県森林研究所木材加工研究室の見学・講義の風景



9/21

真庭高校落合校地生徒70人がヒノキの森で林業体験会



## 6 事業実施による成果、効果、今後の課題

### (1) 成果、効果

- ① 韓国向けヒノキ茶の試飲提供の反応は、とても喜ばれて反応は上向いているが市場とできるほどの需要までには成長していない状況である。  
国内の商品化に向けた取組では、新しく製茶会社（市内）が参画してくれ、現在成分分析を進めている。
- ② 木工品は、韓国向けおもちゃの製作に取り組む職人達の商品開発の意欲向上が図れている。  
また、韓国企業のキッズカフェでは店内におもちゃ置き場を木材で計画しており、子ども達の健康を考え、真庭産のヒノキ材の使用をすすめることとして本格的に設計中である。
- ③ ハンカチやマフラーなどのヒノキ染め物は、韓国内のネット上でショッピングモールと連携した販売の準備を進めている。
- ④ モニターツアーは、参加者の評価も概ね高く、帰国後の参加ブロガー等の情報発信力により個人旅行者を中心に関心を呼んで、多くの問い合わせが韓国旅行社へあるほか、これまで(H30.3.9現在)に70名の真庭訪問予約があり、うち約半数はクリエイト菅谷への宿泊も行程に入っている。  
モニターツアーにより韓国旅行業界との連携を生み、今後のインバウンド獲得に結びつく道筋を得た。
- ⑤ 当事業に関連した動きとして、モニターツアーの参加者へ新庄村で作られているヒノキオイルを紹介したところ好評で、製造者と直接取引が行われている。

### (2) 今後の課題

- ① ヒノキ茶は地元の製茶会社が参画してくれたことで商品化へ大きく踏み出しているが、国内外とも市場ニーズに向けた具体的な研究をさらに進める必要がある。例えばパッケージ、ティーパック化、アロマセラピー効果の説明書きなど。
- ② この他のヒノキ商品についても現在出ている芽がそれぞれの事業者で確実に伸ばせられるよう支援を継続していく必要がある。
- ③ この事業のキャッチフレーズは、「ヒノキの森でおもてなし」であり、おもてなしの拠点地であるクリエイト菅谷一帯の整備充実が一番重要である。今後はインバウンド客を意識した宿泊施設の改善や案内サービスの充実、安全なトレッキングルートなどの整備等課題は多い。

この解決には地域が一体となって継続して取り組むことが最も必要であるが、行政の協力支援も欠かせず、官民の組織である真庭システム協議会としても支援の方策を考えていきたい。

## 7 県民局と協働した効果及び課題

この事業で主なターゲットとした韓国との関係を構築するきっかけづくりに大きな役割を果たした。

また、県庁観光課をはじめ専門部署との調整など広範囲の情報収集、さらに事業実施における関係者への信頼醸成には有効であった。